

(様式1)

平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

127	提案機関名	神奈川県内水面養殖業者協議会		
要望問題名 アユの冷水病のワクチンの実用化				
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 <p>神奈川県内の養殖業者にとってアユは主要な養殖対象種となっています。しかし、アユの冷水病が発生した場合には投薬による治療は困難であり、有効な対策がないため、その対応に苦慮しています。</p> <p>今後、冷水病の強毒株が他県から侵入した場合、冷水病による被害の拡大が懸念されます。一方、BSE、鳥インフルエンザ、コイヘルペス病の発生などから、消費者の食の安全への意識が高まっており、安全な食品の生産・供給が求められています。</p> <p>安全な養殖魚の生産には薬に頼らないワクチンが有効と思われ、これにより魚病の発生、薬剤使用量の削減、消費者の食の安全確保が図られるものと考えており、アユ冷水病ワクチンの開発を要望します。</p>				
解決希望年限	1年以内	2～3年以内	<input checked="" type="checkbox"/> 4～5年以内	5～10年以内
対応を希望する研究機関名	農業技術センター 畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> 水産技術センター 自然環境保全センター			
備考				

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	内水面試験場			
対応区分	実施 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中	継続検討	実施済	調査指導対応	現地対応	実施不可
試験研究課題名 (、、の場合)魚病対策技術・ワクチン推進研究						
対応の内容等 <p>これまで多くのワクチンが試作され、実用性について検討されてきました。これらのうち、実用化が有望な浸漬ワクチンについて、平成20年度から独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所の指導を得ながら製薬メーカー、滋賀県及び本県が協力して実用化に向けて取り組んでおります。平成23年度からは養殖場等において、製薬メーカーが生産したワクチンの臨床試験に着手しました。現在、製薬メーカーとともに治験データを収集しており、ワクチンの早期実用化に努めてまいります。</p>						
解決予定年限	1年以内	2～3年以内	<input checked="" type="checkbox"/> 4～5年以内	5～10年以内		
備考						